

# バナナ栽培の観察記録

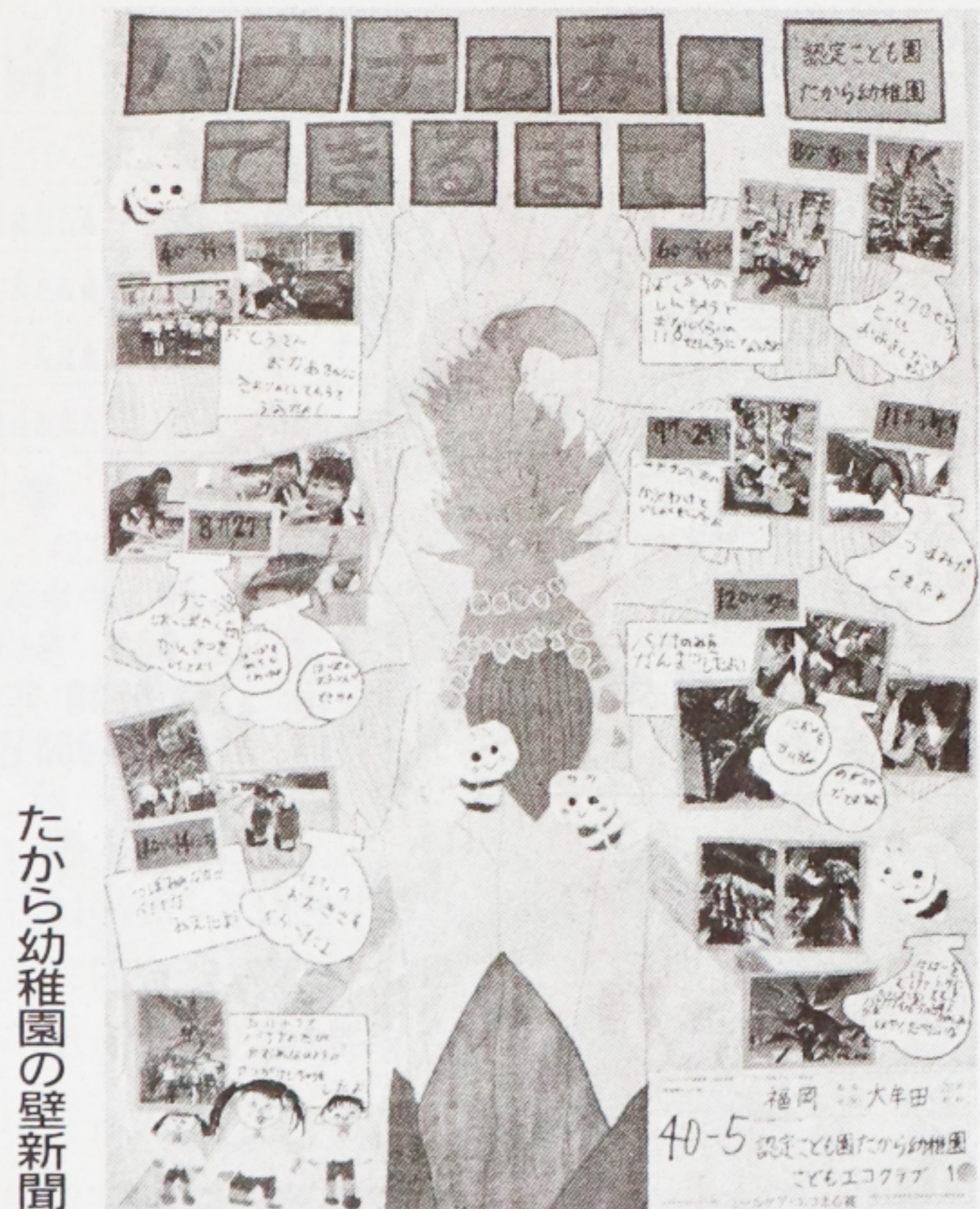
## たから幼稚園 壁新聞が全国入賞

大牟田



表彰式で笑顔を見せる園児ら

大牟田市宝坂町の認定こども園たから幼稚園（守田元哉園長）の園児が作成したバナナの露地栽培の活動をまとめた壁新聞が、日本環境協会（東京）が主催する2024年度の「全国エコ活コンクール」で入賞した。活動テーマの獨創性やアピール力が評価され、5日に園で表彰式があった。



たから幼稚園の壁新聞

同協会は毎年、子どもたちが日頃のエコ活動の内容をまとめた壁新聞や絵日記を全国から募集している。本年度の壁新聞部門には125作品の応募があり、同園は未就学児を対象にした15作品の中から1位に当たるミールケア・エコまる賞に輝いた。同賞の受賞は20年度に続き2回目。

同園は10年ほど前から園内の実習菜園で稲や花の栽培に取り組み、本年度はバナナ作りに挑戦した。4月に苗を植え、12月に実がなるまで世話と観察を継続。

苗が園児の身長を超え3月近くまで伸びる様子や、つぼみができて実が成長する過程を、園児の写真やコメントで紹介した。新聞の中央にバナナの本を大きく描き、折り紙のバナナやミツバチも添え、インパクトのある作品に仕上げた。

応募作は「バナナのみ」ができるまで」と題し、年長児29人が制作。作品は、バナナという切り口が人の興味を引き、カラフルな写真やコメントから園児が楽しく観察している様子が伝わる点などが高い評価を得た。

表彰式で賞状を贈られた園児たちは「どんどん伸びるバナナの本と背比べをしたり、葉っぱを布団代わりにして遊んだりしたのが楽しかった」「花の中にバナナがいっぱい並んでいてびっくりした」などと感想を發表した。

守田園長は「子どもが興味と驚きを持って世話や観察を続けることでいろんな経験ができる。周りを見る力もつく」と、取り組みの効果を実感していた。

（竹下香織）